

平成21年8月18日

瀬目トンネル検討委員会・地盤検討委員会 合同現地調査 とりまとめ

熊本県 球磨地域振興局

国土交通省 川辺川ダム砂防事務所

1. トンネル建設当時、地質調査や専門家による検討等、十分な検討が行われており、その当時の知見においては、ルート選定を始めとした道路計画、トンネルの設計・施工は妥当なものであったと言える。
2. しかしながら、工事が完了し、道路の供用が開始された後に、トンネル内に亀裂が生じたため、地盤変位の観測を行いながら、原因究明に向けた調査を実施するとともに、支保工等のトンネル補修を実施してきた。
3. 観測開始以降、極めて緩慢(年間数mm)ながら地盤変位が継続しており、追加的に実施した地質調査等の結果から、トンネル内で発生している亀裂は、トンネルの一部が地すべり面の影響を受けていることが原因である可能性が高いことが確認されたため、短期間でトンネルが使用不能になる程度の大規模な変位ではないものの、追加的な対策が必要と言える。
4. 押さえ盛土等の湛水地すべり対策を実施すれば、地盤変位は収束し、トンネルの破損の拡大は防止できるものと考えられる。
5. 一方、湛水地すべり対策が当面は実施されない場合においては、道路としての安全対策を実施する必要がある。
6. これまでのトンネル補修では、水抜き対策も試みられてきたものの十分な効果が得られていないが、最近の調査結果より、宙水の状況が新たに把握されてきたため、今後、より効果的な水抜き対策を実施し、その効果を検証する価値がある。
7. このため、道路の安全性を確保するために、モニタリングを実施するとともに緊急対応体制を確保しながら、併行して効果的な水抜き対策を実施することとし、その後、その効果の検証を行ってもなお十分な効果が得られない場合には、新たな対策を検討することとする。

瀬目トンネル検討委員会 委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職 名
こんだ とおる 今田 徹	東京都立大学 名誉教授
おくぞの せいし 奥園 誠之	(財)高速道路調査会 顧問
わきざか やすひこ 脇坂 安彦	独立行政法人 土木研究所 地質監
ましも ひでと 真下 英人	独立行政法人 土木研究所 道路技術研究グループ長
ふじさわ かずのり 藤澤 和範	独立行政法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべり上席研究員
こが みつのが 古賀 充信	熊本県 土木部 道路保全課長
よしざき けんいち 芳崎 賢一	熊本県 球磨地域振興局 土木部長
とよぐち よしゆき 豊口 佳之	国土交通省 九州地方整備局 川辺川ダム砂防事務所長

地盤検討委員会 委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職 名
なかむら ひろゆき 中村 浩之	東京農工大学 名誉教授
いわお ゆうしろう 岩尾 雄四郎	佐賀大学 名誉教授
よしまつ ひろゆき 吉松 弘行	(社)日本地すべり学会 副会長
わきざか やすひこ 脇坂 安彦	独立行政法人 土木研究所 地質監
ふじさわ かずのり 藤澤 和範	独立行政法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべり上席研究員
ふじまき ひろゆき 藤巻 浩之	国土交通省 九州地方整備局 河川部 河川調査官
とよぐち よしゆき 豊口 佳之	国土交通省 九州地方整備局 川辺川ダム砂防事務所長